

## 研修会の御案内

聾学校を会場に行われます。どなたでも参加できます。

松山聾学校・『第2回学校公開』が、平成22年1月23日に予定されています。外部の方にも聴覚障害教育に対する関心を深めていただくために、どなたでも参観ができるよう企画しています。学校公開に併せて、以下の研修会を実施しています。関心のある方は、ぜひ足を御運びください。編集会への参加希望者は、聾学校へお申し込みをお願いします。

### 移動母子教室（聴覚障害者教育福祉協会 主催） 講演会

演題 『聴覚学習と手話について』

講師 田中美郷 先生

(帝京大学名誉教授、田中美郷教育研究所長)

期日 平成22年1月23日(土) 13:45～15:15

会場 松山聾学校 (寄宿舍一階 娯楽室を予定しています。)

## 『ゆずり葉』上映日程が決まりました。

現在決定している、県内での上映日程をお知らせします。

- 11月8日(日)  
時間:【1】13:00 【2】19:00  
会場:愛媛県・四国中央市川之江文化センター
- 11月22日(日)  
時間:【1】14:00 【2】18:00  
会場:愛媛県・ハーバープラザホテル
- 12月20日(日)  
時間:18:30～  
会場:愛媛県・新居浜市総合福祉センター
- 平成22年3月22日(月)  
時間:【1】15:00 【2】18:00  
会場:愛媛県・松山市総合福祉センター1階大会議室

問い合わせは愛媛県聴覚障害者協会へ。

松山市本町6-11-5 県視聴覚福祉センター内

TEL: 089-923-7928

FAX: 089-923-7928



## オーディオロジー研修会

★中国教育オーディオロジー研究協議会・四国教育オーディオロジー研究協議会 合同研修会  
平成21年11月8日(日) 13:00～15:30 会場…岡山県立岡山聾学校 ※要参加費  
講師…須藤 正彦 氏(筑波技術大学教授) 講演テーマ…『教育オーディオロジストに期待されること』

★日本教育オーディオロジー研究会 上級講座  
平成22年1月9日(土) 13:00～11日(月) 15:00 【三連休】  
会場…愛媛大学教育学部 内容…少人数の実習・講義を中心とした専門研修 ※費用15,000円程度、要申込

書籍紹介

機会を逃すと、すぐに紹介し遅れちゃう新刊…今回もドーンとため込んだ新刊を紹介します。

■ 『コーダの世界 ～手話の文化と声の文化』

澁谷智子 著 医学書院 定価 2,100 円 (税込)

コーダ (CODA = Children of Deaf Adults)、聞こえない親をもつ聞こえる子どもたちのことですが、知られていないそのささやかで意外な日常を描いています。



■ 『目からウロコの手話 ～手話を学ぶ人に贈る』

長谷川達也 著 クリエイツかもがわ 定価 1,680 円 (税込)

「ろう者の手話は映像が基になっている!」、これを基本に手話表現のコツとポイントを学べます。



■ 『聴覚障害教育これまでとこれから』

～コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に～  
脇中起余子 著 北大路書房 定価 2,415 円 (税込)

著者は、聾学校に勤める聴覚障害教員。自身の体験も踏まえ、口話法と手話法を同時に視野に入れた聴覚障害児教育の必要性を説きます。



■ 『社会で自立する力を育てる - 科目「社会生活」のテキストと指導の実際 -』

筑波大学附属聴覚特別支援学校・専攻科 編著 定価 1,000 円 (税込)

筑波大学附属聴覚特別支援学校学校の造形芸術科・ビジネス情報科は、「社会生活」の科目を開設し、社会人として必要な実践的な知識を幅広く身につけることができるよう指導している。この授業用テキストに解説をつけてまとめた本。



■ 『永年聾学校にいた者からの『ほんのひとこと』(聾学校における授業改善の視点と方法)』

坂本多朗 著 聾教育研究会より 11 月下旬刊行予定 定価 1,500 円 (税込)

1992 年秋より、17 年間にわたり『聴覚障害』誌への連載を一冊の本にまとめました。123 回にわたって掲載された 400 字詰原稿用紙で 3,500 枚の中から、最重要と思われる課題を取り出して、18 章に分けて問題提起しています。授業の中から生まれた『ほんのひとこと』を貴重な実践記録として、現場の先生方や保護者の皆様に読んで頂けますよう、お勧めいたします。(中略、聾教育研究会 HP より引用)

■ 『話しことばの世界への出発 -いきいきと話す聴覚障害児をどう育てるか-』

坂本多朗 著 聴覚障害者教育福祉協会 発行 定価 1,500 円

著者による、既刊一作目「話し言葉から書き言葉へ」、二作目「のびのびと聴いて話して読んで書く」の続刊として、40 数年の経験をもとに書かれている。今刊は、話しことばを育てる「発音指導」を中心に、ことばの指導の実践例が示されている。



■ 『手話を尊重し、日本語をしっかりと』

～手話の活用と「組込み式手話法」による日本語教育法～

市橋詮司 著

本書のシリーズを通して、フュージョン・エデュケーションと組込み式手話の提唱をしています。



## 行事報告

10月6日、本年度2回目の幼児体験学習を行いました。外部からの参加幼児11名が、在籍児といっしょに活動しました。

まずは、絵本「いもほりよいしょ」の読み聞かせです。動物たちが登場するたびに、「ねずみだ。」「ゴリラだ。」と発言したり、動物たちが芋を掘る掛け声をまねしたり、出てきたお芋に驚きの声を上げたりと、楽しく聞くことができていました。その後、絵本の再現遊びをしました。やりたい動物の役ができなくて泣く子どもいましたが、土に見立てた布の下から、芋のつるに見立てたひもを引っ張ると、いろいろな形のさつま芋が出てくる遊びは、絵本を思い出しながら振り返れる楽しい活動となりました。

メインの予定は、「いもほり」でしたが、雨模様ため、さつま芋を使っの「スイートポテト作り」に変更と

## 第2回 幼児体験学習

なりました。手順表や、写真カードを見ながら、友達とも協力して調理しました。2歳のお友達も、おもちゃのトラックに乗せて材料を運んだりし、その年齢なりの参加ができました。みんなでお弁当を食べながら焼き上がりを待ったあと、おいしくいただきました。

体験の後、「家庭でもスイートポテトを子どもといっしょに作った」と、親子で聾学校での経験を生かしていることがうかがえ、うれしく思いました。

幼児体験学習は、聾学校の専門性を生かした活動を体験してもらうこと、授業参観や、他学部の参観を通して聾学校についての理解を深めてもらうこと、教育相談による、個々の希望に応じて支援することなどを盛り込んでいます。

来年度も、楽しい活動を盛り込んだ体験学習を企画していきたいと考えています。

## 『おやこ手話じてん』のDVDと、便利なCDイラスト集 発売



左の本を、過去に紹介しましたが、この本のDVDと、本の中に使われているCDイラスト集が発売になりました。

本とDVDをセットで購入すると、手話の動きがよく分かります。また、イラストCD集は、家庭や先生方の教材づくりに力を発揮してくれるもので、お勧めです。

購入は、全国早期支援研究協議会へ。セット価格や割引もあるようです。

ご注文は…全国早期支援研究協議会へ

メール、またはFAXで申し込んでください。

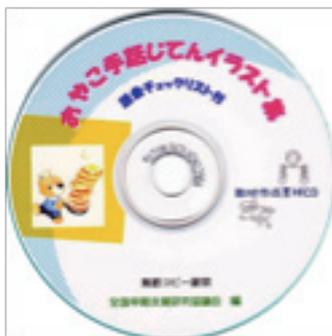
メール [soukisien@yahoo.co.jp](mailto:soukisien@yahoo.co.jp)  
FAX 03-5397-6562

### ■ 『わかる!できる! おやこ手話じてんDVD』 全国早期支援研究協議会 編 定価 3,500円

『おやこ手話じてん』が、DVD 2枚組になりました。絵と解説だけで分かりにくい手話も映像で分かります。幼児の生活に必要な1317語を収録。50音順の配列で、検索も簡単。



### ■ 『わかる!できる! おやこ手話じてんイラスト集CD』 全国早期支援研究協議会 編 定価 1,800円



ポイントは3つ。

★『おやこ手話じてん』に載っている2700枚のイラストをコピーして、ワードやエクセル、一太郎などにはりつければ、子ども用の教材が作れます。

★指文字50音のイラストが付いています。

★「語いチェックリスト」で、手話・日本語別、50音別、品詞別など、獲得語いのチェックと整理ができます。

## 幼稚園・保育園の運動会を見て…聞こえの配慮について

10月は、教育相談幼児さんの幼稚園や保育園の運動会を見る機会が多くありました。本校の運動会は春に開催のため終了してしまっていますが、運動会での配慮について気がついたことを、次年度に生かせるよう書き留めておきます。

■ 運動会では、担任の先生や支援員の方が、FMシステムを使用されている場面を多く見かけ感心しました。

御存知のようにFMマイクの使用は、「ききとりにくさ」を軽減するものであって、決して補聴器・人工内耳のもつ聞こえの限界をなくすものではありません。

FM補聴器をつければ万事OKということではなく、多くの場合、FM補聴器を効果的に活用するためにも、また、本人が言語情報を負担なくを受信するためにもFMマイクなどハード面の整備や使用以外に、「教師や支援員の話し方の配慮（手話や筆記なども含む）」「視覚的手がかり」などで補っていく工夫や配慮が必要になります。それは、運動会の時でも同じです。

■ 聴覚障害だからみんな同じということはありません。子どもの聞こえの状況にあわせて、対応方法を考えることが基本です。

事前練習の中では、その子がやりにくいことなどが確認できます。

聞こえずに困る場合などを見極めながら、次に行う際、どうすべきかを検討・修正していくことが大事になります。

■ 聴覚障害のある子どもたちは、耳のハンデを目から入る情報で補っています。視覚的な情報があれば、聞きもらした場合でも、自分で情報を補うことができるため助かります。

■ まずは、先生の顔・口元がよく見える場所に配置させ、主となる先生の話声を聞けるようにします。話し手の話ををしっかりと聞けるようにするためにも、前に立つチーフをしっかりと決め、説明するときは、文字や絵、身振りも使い、分かる配慮をすべきです。その上で、支援員さんなどが横につき分かりやすく説明することが生きてきます。また、練習時には、「今日の練習のメニュー」を掲示してもらっておくなど、自分で見て行動できるようにする配慮があると、安心して取り組めてよいでしょう。

■ 「マイクの声」「音楽」は、聞こえにくいこ

とが多々あります。必要に応じて、FM送信機を音楽機器やマイクやスピーカに接続しクリアな音を届ける工夫が可能です。

■ 競技中、何の競技が始まるのかわからない場合には、視覚的に見て分かるように、次に何が始まるかを大きな紙に書いて示すなどの方法が役立ちます。参観した中には、プログラムを日めくりのようにしてテントのところに表示されたりしていました。イラストが入っていて分かりやすくなっていました。聾学校の幼稚部では、毎年下のようなプログラムを置いています。



■ 音声による競技の指示が聞こえない場合には、イラストや文字での提示、ジェスチャー・サイン・旗の動きなど、目で見える方法を準備する必要があります。

■ スタート合図などを笛の音を聞いて行うことは、聴覚障害の場合、苦手とする子が多いです。また、会場が騒がしくピストルの音が聞きとれない場合もあります。その場合、手を下ろしたり、旗を使ったりして合図することに変える必要があります。

■ ダンスなどは友達の様子を参考にします。友達がよく見える場所で演技をさせるようにします。また、手本となる先生が見やすい位置に立つようにします。